

プレスリリース

5月27日、東京大学五月祭の最終日に、東京大学教養学部の立花ゼミが招聘する形で、核融合に関する一大シンポジウムが開かれます。

徹底・討論 核融合「点火 (Ignition) &アフター」

ロード・マップとタイムテーブル

1. 開催日時：5月27日(日) 13時 — 17時
2. 開催場所：東京大学本郷キャンパス工学部2号館 213号室
(安田講堂に向かってすぐ左側の大きな建物)

プログラムは次のようになっています。

第一部 現状報告と「点火&アフター」のタイムテーブル

核融合研究四つの流れからのロードマップとタイムテーブル提示

- | | | | |
|---------------|-------------|--------|-----|
| (1) トカマク・イーター | 日本原子力研究開発機構 | 松田 慎三郎 | 執行役 |
| (2) レーザー | 大阪大学 | 畦地 宏 | 教授 |
| (3) ヘリカル | 核融合科学研究所 | 山田 弘司 | 教授 |
| (4) 球形トカマク | 東京大学 | 高瀬 雄一 | 教授 |

第二部 パネル・ディスカッション 点火から発電へ

- ・ そのロードマップと課題
- ・ いかにも実現するか「日本国の戦略と戦術と力量」

パネル・ディスカッション参加者

第一部の出席者 プラス 下記の2氏

電力中央研究所 岡野 邦彦 上席研究員
東京大学 小川 雄一 教授

司会 立花隆 (東京大学情報学環特任教授)

このシンポジウムが企画された経緯は、別紙趣意書にもあるとおり、次のようなことです。

去る3月21日に丸の内の国際フォーラムにおいて、自然科学研究機構の主催で、シンポジウム「宇宙の核融合・地上の核融合」が開かれました。その時、立花隆がプログラム・コーディネーターと総合司会を務め、立花ゼミのゼミ生たちが事前準備から当日の下働きまで手伝いました（解説ページを作るなどしたので、核融合科学研究所、阪大レーザーエネルギーセンター研究所なども見学した）。

学生たちは、この活動を通じて初めて日本の核融合研究に触れ、いよいよ点火も間近と聞いてびっくりしました。核融合に関する情報が日本にはあまりに伝わっていないことを嘆き、核融合研究の全体像をもっと知りたい、もっと世の中に知らせたい、と考えて企画したのがこのシンポジウムです。

そして

- ・ 三月のシンポジウムでは、主要潮流のトカマクとイーターの流れが抜け落ちていたが、そこは今どうなっているのか。点火はいつごろするのか、
- ・ 一番点火が近いと言われているアメリカのレーザー核融合（NIF）の研究はどうなっているのか。いつ点火するのか。
- ・ 点火から発電までの見通しはどうなっているのか。
- ・ 日本には四つの核融合研究の流れ（トカマク、レーザー、ヘリカル、球体トカマク）があり、その四つの流れで研究リソース（人、物、金）を分け合っているが、それは将来的にどうなっていくのか。

そのあたりを知るシンポジウムをとということです。

幸い、各核融合研究の現場の機関と研究者たちが、学生たちの希望に応じてくださり、プログラムに示したとおり、いずれの流れからもトップの方々が、演者として出演していただけることになりました。

すでに五十年の歴史を持つ核融合研究の歴史において、このように流れを異にする研究者たちが一同に会して、日本で目前に迫りつつある点火とその後について、公衆を前にして激論を交わすというのは、初めての試みです。

現時点において、主流となっているトカマク（イーター）の流れにおいても、レーザー方式においても、すでに点火を完全に視野に入れた実験段階に来ています。

2010年代（レーザー）ないし2020年代（トカマク）の点火を疑うものは研究者コミュニティにはほとんどいません。そして、いくつかの指標において、トカマクを抜く実績を上げているヘリカルと球形トカマクの研究者達は、実験炉から原型炉（デモ炉）に移る段階において、必ず自分たちの出番が来ると信じています。

点火が遠未来のはるかな目標でしかなかった時代、核融合の未来を語るのは、ほとんど夢物語を語っていただすんでいましたが、これからは違います。

点火が完全に視野に入ってきた今、具体的な数字を入れたロードマップを語る必要があります。

核融合研究は、装置ひとつとっても大変に金がかかる研究です。しかし、この研究はエネルギー資源小国日本にとって、最も重要な研究の一つと考えられ、これまでも日本の研究リソースの配分において、トップとは行かないまでも、高いプライオリティーを与えられてきました。核融合研究に対する累積研究投資額は、大変な金額に上ります。

説明責任の観点から言っても、いまや、ロードマップとタイムテーブルが、現実的に、かつ具体的に語られなければなりません。

第二部のパネル・ディスカッションにおいては、核融合研究コミュニティーの内部に設けられたロードマップ検討委員会で中心的な役割を果たしてこられた岡野邦彦上席研究員と小川雄一教授の二人が討論に参加され、全員で激しい討論を交わす予定です。

ぜひとも、取材にお出かけ下さい。

当日取材は、当日でも受け付けますが、なるべく事前に事務局にご連絡下さい。また、学生への事前取材、あるいは立花への事前取材は立花隆事務所に、各演者への事前取材は、各所属機関へご連絡ください。

シンポジウム参加希望者は、立花ゼミのページ（サイ）<http://sci.gr.jp/>の中に開設された準備ページで参加登録をしてもらう予定です。

立花 隆
立花隆事務所

電 話 03-5689-2784
ファックス 03-3813-8353

tachibana-office@mocha.ocn.ne.jp

日経BP立花 隆メディア ソシオ ポリティクス

<http://www.nikkeibp.co.jp/style/biz/feature/tachibana/media/index.html>

「サイ」 <http://sci.gr.jp/>

立教・立花ゼミ 乱歩通り裏 6号館 ネコ屋敷

<http://www.tachibanaseminar.jpn.org>